

ロシア東欧 経済速報

(社)ロシア東欧貿易会

2003年(平成15年)6月15日号 No.1263

目次

| | |
|------------------------------------|---|
| サハリン からのLNG購入に関する基本合意 | 1 |
| 統計速報 | 6 |
| 2003年1～3月の対CIS・中東欧・モンゴル輸出入通関実績 / 6 | |
| キーパーソン | 7 |
| 経済産業省ロシア・NIS室に新室長 / 7 | |
| ロシア東欧貿易会関連の行事予定 | 7 |
| CIS・中東欧諸国通貨の為替レート | 7 |

サハリン からのLNG購入に関する基本合意

はじめに

去る5月12日、東京ガス株式会社が、サハリン プロジェクトの液化天然ガス(LNG)購入に関する基本合意の締結を発表した。サハリン から生産されるLNGを、2007年4月から24年間、年間110万t購入するというのがその骨子である(後掲のプレスリリース参照)。5月19日には東京電力株式会社も、やはりサハリン からのLNG購入に関する基本合意を発表している。東京電力の場合は、期間が2007年4月から22年、数量は基本数量で年間120万tとされている(詳しくは同社ホームページの「広報発表」のコーナー参照 <http://www.tepco.co.jp>)。

今回の基本合意は、サハリン大陸棚石油・ガス開発プロジェクトで大口の買主が初めて正式に決まったというだけでなく、日本のロシアからの天然ガス、LNG輸入に先鞭をつけたわけであり、日ロ貿易業界、ひいては二国間関係全般にとってきわめて意義深いものである。サハリン・プロジェクトを軸とする両国の経済協力が、また一歩前進したことを意味しよう。サハリン に参加しているロイヤル・ダッチ・シェルのワッツ会長も先日、「(サハリン の) LNGの最大顧客は、中国でも韓国でもなく日本」と、わが国への期待の大きさを語っている(6月3日付『日本経済新聞』)。

そこで本誌では、今回の合意の内容、サハリン・プロジェクトに関する基本的な認識について、東京ガス広報部に質問状をお送りし、このほど文書で回答をいただいた。以下、5月12日付のプレスリリースとともに、同社からの回答内容をお届けする。ご協力いただいた東京ガス広報部に改めて謝意を表する次第である。